



年度後半がスタート！

10月1日、全校朝会を行いました。ちょうど、年度の折り返しということもあり、先日、文書でお伝えした「今後力を入れて取り組むこと」の内、3点を子どもたちに伝えました。

- 1 「伝え合い、学び合う学習」を充実させよう。
- 2 「家庭学習」の習慣化、内容を充実させよう。
- 3 「読書」に進んで取り組もう。

1については、まず、自分の考えを持つこと、そして、それを言葉で相手に分かりやすく伝え合うことの大切さについて話しました。思いや考えを伝え合うことで、さらにより考えにたどり着くことが多々あります。さらに、学んだことは、人に話すことで記憶されやすくなりますので、授業のまとめ等でも、学んだことを伝え合う場面を大事にしていまいます。また、今は、少人数ですが将来、様々な学びや仕事など多くの人たちの中で活躍できるようにするためにも、「相手が分かるように伝えること」を大切にしていまいます。

2、3については、学校評価アンケート結果からも、今後、特に力を入れていくことが大切であることが明らかになりました。まず、家庭学習については、**目安となる時間「10分×学年+10分」**について確認しました。また、宿題だけでなく自主学習等に進んで取り組むことが大切ですので、よりよい取組みの例を掲示したので参考にすることを伝えました。読書については、学年ごとに読んだ冊数やページ数を記録し読書量を確認できるように「**読書マラソン**」カードを作成し使用していくことを伝えました。意欲付けのための表彰も予定しています。また、生きていく上で「読む力」はとても大切であること、本を通して様々な生き方や考え方に触れることで心を豊かにできることなどについて話しました。ご家庭でも是非「秋の夜長」を読書タイムでお楽しみいただければと思います。

両沼地区児童理科研究物展

2年 本名優希さん 準特選

「せんざいのあらう力について」

3年 小林沙乙珠さん 準特選

「10円玉をきれいに出来るか調べ」

6年 五十嵐直人さん 入選

「氷の溶け方」

昨日、ノーベル生理学・医学賞受賞のニュースが入りました。受賞が決まった本席 佑さんは、「大事なことは『知りたい』と思うこと、『不思議だな』と思う心を大切にすること、教科書に書いてあることを信じないこと、常に疑いを持って『本当はどうなっているのだろう』と。自分の目で、ものを見る。そして納得する。そこまで諦めない。そういう小中学生に、研究の道を志してほしいと思います。」と述べられました。研究の道でなくとも、「疑問や疑いについて自ら確かめる」ことは生きていく上で大変大事なことだと考えます。

理科研究物展では、子どもたちの「なぜ」を様々な方法で追求しまとめます。お子様の「疑問」やその解決に寄り添っていただけた部分も多かったかと思います。学校でもお子さんの「なぜ」や「疑問」を大切に、「納得」する経験や「あきらめない」気持ちを育ててまいりたいと思います。

大竹有香先生が退職されました

先日、「退職職員のお知らせ」の文書を全家庭に配付いたしましたが、5月より勤務いただいた大竹有香先生が9月末日で退職いたしました。

大竹先生は、日頃から優しく熱心に温かなご指導をされており、子どもたちも信頼を寄せていたところですが、大変残念なことにご都合により退職されることとなりました。在職中は、保護者、地域の皆様に大変お世話様になりましたこと深く感謝申し上げます。

勤務最終日には、各学年の子どもたちが、大竹先生にお別れの言葉を述べたり、手作りのプレゼントをおくったりするなど、子どもたちも大竹先生も思い出深い一日となりました。ご都合がつけば、校内マラソン大会や学習発表会などにも来ていただけるとのこと、またの再会を励みに、子どもたちも様々な活動にがんばる気持ちも高まっています。

なお、先日の文書でもお知らせしたとおり、全県的な講師不足もあり、大竹先生の後任がなかなか見つからない状況にありますので、5年生を中心に教科担任が一部変更となりました（先週末、関係する学年の学年便りでお知らせしました）。子どもたちの学習がさらに充実できますよう、学校としても十分配慮してまいります。講師の先生の情報などありましたら、遠慮なく教育委員会・学校までお知らせください。（なお、裏面に3年以上の教科担任を載せました。）

